

師匠と弟子の物語

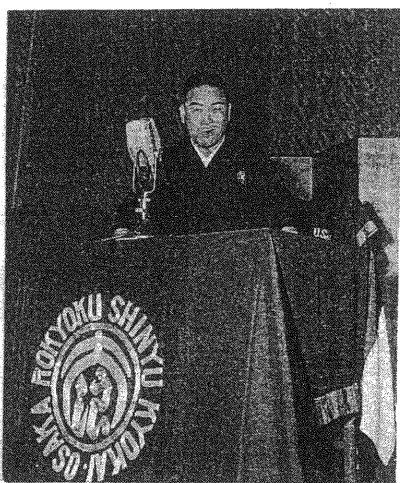
まつうらしろわか
松浦四郎若

「浪曲の原点に帰り、声・節・啖呵を磨きたい」

文・おさだ衛



まつうらしろわか。本名・寺坂東。昭和20年うまれ、53歳。愛媛県西宇和郡の出身。生来の浪曲ずきが高じて25歳で松浦四郎に入門。関西の浪曲界を背負って立つ若武者だ。上の写真は昭和50年、NHK新人浪曲コンクールで最優秀賞を受賞したパーティ。左が松浦四郎。四郎若の手前が東家浦太郎（当時は太田英夫）。右は故・二代目篠田実。



松浦四郎。大正10年、京山呑風に師事、16歳で浪曲界入り。軽さと風格を備えたベテランの味わいがあった。

浪曲は危機に瀕していると言われて年月が経つ。観客数の減少、浪曲関係者の高齢化、マスコミの関心の乏しさなど明るい話題に事欠く浪曲界だが、この「国難」を心底、憂いているのが関西の四郎若だ。

熱誠の人。四郎若は、世のため人のため義を重んじ身命を賭して日本の夜明けを導いた「幕末の志士」に見える。その愚直な生き方は師匠から譲り受けた。

「師匠は生涯を浪曲の普及と後進の育成に捧げた方でした」

恩師の松浦四郎は今年の2月22日に享年93で彼岸の人となった。浪曲親友協会の会長を長年つとめ関西浪曲界の指導者の役割を果たした。昭和58年に62年に及ぶ芸能生活にピリオドを打つ

で引退した関西屈指の芸豪だ。

「師匠は人を疑うことを知らない方でした。猜疑心が全くありません。私も弟子入りして、すぐに財布をあずかりました。お天道さまと共に生きるという、心が優しく大きい師匠でした」

昭和45年に25歳で入門して住み込みとなった。

「師匠は大様（おおよう）な方でしたが、奥さんの有岐子（ゆきこ）師匠には、みっちり仕込んでいただきました」

松浦有岐子は松浦四郎や松平国十郎などの三味線を務めた名手で惜しくも65歳で昭和53年にあの世に旅立った。

「有岐子師匠は稽古では鬼でした。稽古は本番よりもしんどいのが当たり前という方でした。「寺坂くん、そこ、こういう節が使えんか」「そんな声はあかん。水風呂で尻をこいたような声を出してどうするねん」と本当に勉強させてもらいました」

住み込み弟子なので、拭き掃き掃除もしなくてはいけない。

「有岐子師匠は昔気質の方で綺麗ずきで、夏は掃除は1日に2回はしましたね。もちろん私も一緒でした」

前回の三原佐知子師匠の取材でも感じましたが、芸の継承には師匠への服従や同化が必要だ。内弟子生活とは貴重な体験だといまさらながら実感させられ

た。
「ここからは四郎若の浪曲観を聞こう。」

「私は浪曲の本質は義理や人情だけでなく社会ルールにあると思います」

下ネタはやらない、演題は練りに練って舞台に掛けたい。四郎若の舞台はユーモアや余裕というより緊張感がみなぎっている。熱気と潔癖さが四郎若の特徴だ。

「浪曲が好きなんです。虫が好くんですね。目いっぱい貧乏して行くせにねえ、ハハハ。芝居なら2時間かかる内容が30分に凝縮できる一人芸。浪曲は素晴らしい芸だと信じています」

浪曲についてなら四郎若は何時間か



「師匠と一緒に写真はこれ一枚だけ。有枝子師は四郎師を『戦前のほうが涼やかな大音(だいおん)だった』といっていました。四郎師は九州なまりがある豪快な声でした」

たつても倦むことが無い。

「浪曲は声が看板の条件です。声節(こえふし)の中にピシッといいものが聞かせられたら満足です……。」

浪曲は原点に帰って声、節、咬阿の身を良くすればいいと思うんです。舞台装置や目先を変える工夫も大事ですが私は基本を大切に型を崩したくない。しかし、これでは保守的すぎますかね」

四郎若の渾身の舞台は12月5日(土)の大阪・国立文楽劇場の「師走名人浪曲大会」で見られる。演題は「伊勢土産」で京山幸枝栄(こしえ)の弟子の京山幸栄(ゆきえ)との掛け合い浪曲になる。関西のファンだけでなく全国の浪曲ファンにも見てもらい



昭和51年、東京のテイチクレコードの杉並スタジオにて。四郎若の「太閤記」吹き込み時の松浦有枝子。「私には四郎師匠と同じ恩師です」

たいものだ。

「いま三味線は藤信初子師匠に助けけてもろうてます。浪曲の三味線は舞台で語られるすべての情景を音で表現します。初子師匠は腕が達者で私たちの誇りです。曲師の先生がたの偉大さを近頃は、しみじみと感じます」

四郎若は人生そのものが浪曲で、浪曲と心中しても本望なのだ。

「いまの私は充電期間ですから、ネタを増やしたい。関西にはたくさんいいネタがあります。いいネタは誰かが受け継がないと浪曲は衰亡します」

ひとりでも浪曲ファンを増やしたいと熱望する四郎若。彼のような熱血漢が浪曲の「国難」を救うはずだ。四郎若浪曲の前途に期待したい。



一席一席が正念場だ。四郎若の気迫は鋭い。「私にとって浪曲は宗教か信仰みたいなものです。これまでに収集した浪曲のテープ三五〇本が財産です」

浪曲…これほどすばらしい芸は他にはないと
思います。

43
—
52

浪曲家の皆さん…頑張ってください。
多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉